

学術事業報告

学発番号：第13-028号

研修会名：臨床化学免疫血清分野 研修会

日 時： 2013年7月23日(火)18:30～20:30

場 所： 京都保健衛生専門学校 視聴覚室

主 題1： 「透析療法の基礎とP・Ca検査の意義」

講 師1： 中尾 弘和 氏（扶桑薬品工業株式会社 営業学術部）

主 題2： 「脂質にまつわるピットフォール」

講 師2： 金田 幸枝 氏（積水メディカル株式会社）

参加数： 総人数 15 人(正会員 9人)

報告者： 小林丈夫（京都駅前ホリイ内科クリニック）

以下、講演内容など

主題1

現在約30万人が受けている慢性透析療法における血液透析・腹膜透析の原理および透析液の歴史について説明するとともに、2012年に発表された「慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常診療ガイドライン」よりP・Caの測定意義について説明します。（研修会案内より引用）

人工透析の導入件数が、2012年に30万人を超えた。糖尿病性腎症から透析導入に至るものが全体の40%を占めており、今後も増加すると考えられている。

講演では人工透析についての説明と、それに関連して提出される検体の特殊性について、詳細に説明された。

人工透析は老廃物の排泄は機能代行できるが、エリスロポエチン、レニン、活性化ビタミンD3など内分泌系機能は代行できないので、データ解釈に注意が必要となる。

採血検体は抗凝血薬が混じっているので、検体取扱いとデータ解釈、特に内分泌に関連する項目には注意が必要なこと。また透析液を検体として測定する場合の注意点など、現場に直結する内容で非常に意義深かった。

主題2

どんな検査も思い込みがトラブルとなることがあります。脂質についても同様に、脂質の数値変動、脂質異常症の検体の内容など、過去に経験した問合せ対応も含め、日頃のルチン検査に役立つ情報をまとめて紹介します。（研修会案内より引用）

血清の乳びと混濁は異なること、食事によるデータ変動は個人差が大きいこと、ヘパリンやグリセロール混入によるデータ不良の例など、実例をもとに紹介された。

また食習慣の違いから、日本人の脂質異常症のパターンは欧米型とは若干異なること、

計算式(F式)が主流であることなど、内容は多岐にわたり非常に有意義だった。